

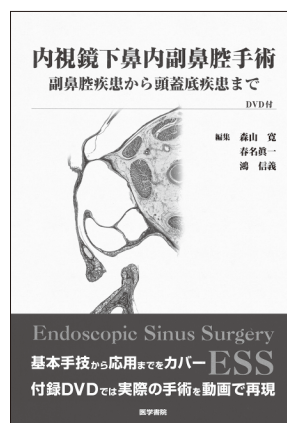


内視鏡下鼻内副鼻腔手術 副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで [DVD 付]

編：森山 寛，春名眞一，鴻 信義

A4 頁 336 2015 年 5 月 定価：本体 18,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02094-7] 医学書院刊

＜書評者＞ 川内秀之（島根大学教授・耳鼻咽喉科学/日本鼻科学会理事長）



今日の鼻副鼻腔内視鏡手術の理論体系を見事に確立

300 頁余を擁する本書は、鼻・副鼻腔あるいは関連領域の疾患に関する外科的治療について解説した、国内最高の教科書といえる。後世に残る歴史的な state-of-the-art である。書評を依頼され読んでいくうちに、自分にフルボディのビンテージの赤ワインを味わう資格があるのかと、自問自答するはめになった。そのため、小職が多忙な仕事の合間を縫い時間をかけて熟読するのに 2 か月を要した。その理由には、二つの大きな要素がある。第一の理由は、本書が単なる内視鏡を用いた鼻副鼻腔手術の技術的な解説書ではなく、高橋研三先生に端を発し高橋良先生に受け継がれ、多くの東京慈恵会医科大学の諸先輩の長年の努力により、熟成され築かれてきた集大成の結実であることをひしひしと感じたからである。第二の理由は、臨床医学としての鼻副鼻腔手術の技術革新に貢献する手法として、本書には鼻副鼻腔の機能解剖に関する研究の歴史と深い造詣が基盤にあり、東京慈恵会医科大学方式と謳われる今日の鼻副鼻腔内視鏡手術の理論体系が見事に確立されている点である。素晴らしい成書であると賞賛し感嘆するほかない。

各論に少々触れてみると、編者の森山寛名誉教授が述べておられるように、内視鏡下鼻内副鼻腔手術 (endoscopic sinus surgery : ESS) を志す若手の耳鼻咽喉科医から、症例経験の多い術者まで、幅広く、座右の銘として使える仕様になっている。付録の DVD は、解説書の理解を容易にし、その情報が 2 次元的に読者の脳に入ってくる。

また本書には、鼻副鼻腔疾患を有する患者の鑑別診

断、局所所見や画像診断からの術前の病変の熟読から、内視鏡手術を施行するに当たっての術前の準備、術中の対応、術後の患者のケアがきめ細かく記載されている。また、それらの実施を完璧にするため、種々の医療材料や手術器具の使い方についても、微に入り細に入り紹介されており、ESS を行う読者のニーズに対応する encyclopedia (百科事典) といっても過言ではない。慢性副鼻腔炎や鼻茸の手術はもちろんのこと、鼻中隔手術、外傷や腫瘍、各種頭蓋底病変に対する内視鏡手術についても、詳細な臨床解剖に基づいた手術手技が紹介されている。さらに手術の際の副損傷に関しても、その要因や予防について詳細にかつ誠実に解説されており、現場で手術を担当している医師には大変貴重な情報である。慢性副鼻腔炎の内視鏡手術の新たな手術分類や好酸球性副鼻腔炎に関する病態、外科的治療などについても詳細に言及されており、最新の内容をも網羅している。

熟読した結果、余計なお世話といわれるが、いくつかの小さな変更すべき点も見つけるに至った。しかし、耳鼻咽喉科医になって 33 年を過ごし、教授職に奉職して 21 年が過ぎた自分だが、こんなに熟読した素晴らしい手術書は後にも先にも出てこないと確信している。半世紀以上前に東京慈恵会医科大学を中心として日本で始まった鼻内手術の伝統は、医療用硬性内視鏡と手術機器の技術革新により、そのコンセプトが見事に結実され、今や全世界に百花繚乱のごとく浸透した。

最後に、この成書が英文に翻訳され、森山、春名、鴻の各氏のご努力と名声が全世界に行き渡ることを願ってやまない。